

日本超音波医学会第 95 回学術集会を終えて

会長 廣岡 芳樹

(藤田医科大学消化器内科)

1. はじめに —中部地方で初めての日本超音波医学会学術集会—

2022 年 5 月 20 日 (金) から 22 日 (日) の 3 日間にわたり、名古屋国際会議場において、日本超音波医学会第 95 回学術集会を開催させて頂きました。2020 年 1 月から始まった新型コロナウイルス感染症は学術集会の開催様式を一変させました。完全現地開催は難しくなり、現地開催と Web でのライブ配信の組合せあるいはそれにオンデマンド配信を加えるかどうか、というような開催様式が一般化しつつあります。

ただ、今回は日本超音波医学会学術集会の長い歴史の中で初めての中部地方での開催ということもあり、当初からライブ配信なしの通常開催を強く望んでおりました。出来るだけ通常開催に近い形での開催を企図していました。“何としてでも”という“念力”が神様に通じたかどうか分かりませんが、感染者数が第 6 波と第 7 波の間のちょうど底のタイミングで開催することが出来たことは本当に幸運であったと思っております。

可能な感染対策を講じながら、出来るだけコロナ前の学会に近い形での開催を目指しました。ご施設の規則などで現地参加不可能な方もおられると想定し、ライブ配信なしの現地開催とオンデマンド配信としました。その結果、オンデマンドを含む全参加者は約 5,800 名、現地参加者も 2,200 名と大変多くの方にお越し頂き盛会裏に終えることが出来ました。これもひとえに、会員の先生方のご協力、ご講演ならびにご司会を頂きました多くの先生方のご協力、事務局や共催頂きました関係者の方々のご支援によるものと心からお礼申し上げます。そして、実行委員長として奮闘頂いた橋本千樹先生、プログラム委員会委員長の熊田卓先生、当科ならびに超音波センターの皆さま、全ての方に感謝申し上げます。

図 1 は、今回の学会のポスターです。学術集会のポスターでは名古屋城と『昇龍道』を組合せました。日本超音波医学会中部地方会には、静岡県・愛知県・岐阜県・富山県・石川県・福井県・三重県が含まれ

ます。広い意味での『昇龍道』には上記以外に長野県と滋賀県が含まれます。愛知県・静岡県・三重県から昇りあがった龍が、長野県と滋賀県をも含めた多様性を蓄えながら、岐阜県・福井県・石川県・富山県と上昇しつつさらなる高みへと昇華していく様子をイメージいたしました。

2. 学術集会のテーマおよびプログラム構成

今回の学術集会のテーマは『超音波医学—深化し昇華する多様性—』とさせて頂きました。私の専門領域であります消化器病学における研究分野の多様性は増加し続けています。しかしながら、多様性の増加はややもすれば学問領域の拡散・分散に向かうことも危惧されます。多様性を深化させ、その上で一段と高尚な域に高めることこそが重要であると信じています。日本超音波医学会は多くの臨床分野や



図 1

基礎分野を包容しています。機関紙編集委員長として非常に多くの分野からのご投稿を頂戴することからもそのことは実感されます。用語・診断基準委員会委員長を拝命しておりました時にも、本学会の多様性の素晴らしさを強く感じておりました。日本超音波医学会に関わる会員の職種も多種多様です。女性の進出も目覚ましいものがあると思います。これも歓迎すべき多様性だと思います。各々の会員が属する多分野の知見を統合することでこれまでと異なる次元へと昇華したものが得られると考えます。そのことで得られる“各臨床分野の横断的理解・研究そして基礎領域と臨床領域の融合の重要性”こそが他学会にはない日本超音波医学会の強みであると信じております。このことに焦点を絞り、第95回学術集会のテーマを『超音波医学—深化し昇華する多様性—』とさせて頂きました。

議論を深化させ昇華させるにはセッションの時間を長くする必要があったと考えました。180分、120分などこれまでの日本超音波医学会学術集会ではあまり企画されなかった長時間のセッションを多く取り入れました。その甲斐があつてか、各セッションはしっかりとディスカッションが出来たと概ね好評であったと思っております。

3. 開会式と会長講演

開会当日を迎えるまでコロナのことが気がかりでしたが、開会当日を迎え覚悟も決まり、度胸も据りました。図2（右写真は左写真の中央部の拡大）は開会式の様子ですが、少し疲れ気味ではありましたが、気持ちはすっきりとしていました。でも、“こ

れからの3日間、何も起こらないように”と心では祈り続けていました。

私は、研修医のころから胆膵疾患に興味を持っていました。現在は愛知県半田市で開業されている春田和廣先生と知多郡南知多町豊浜で開業されている大岩大介先生に胆膵疾患とその他全てを教えて頂いたように思っています。ちょっと横道にそれそうになった時には、後に半田市立半田病院病院長になられた肥田野等先生に軌道修正をして頂きました（先生方、本当に有難うございました。）。

会長講演では、『胆膵疾患診療における超音波の功績と今後の方向』というタイトルで思っていることを大体話すことが出来たのではないかな、と考えています。胆道癌・膵臓癌は予後不良な癌の代名詞のようになっていきます。超音波検査はこれら予後不良の癌を早期に発見するための重要な武器であり、今後益々の発展を遂げると確信しています。会長講演のご司会は、私自身が胆膵疾患の研究を行う上での恩師である元胆道学会理事長の乾和郎先生にお願いいたしました（図3 左 乾和郎先生、右 乾和郎先生と筆者）。

4. 師匠が語る藤井聡太という才能

初日の特別講演は、公益社団法人日本将棋連盟棋士 杉本昌隆八段にお願いいたしました。愛知県瀬戸市のご出身とのことで、藤井聡太龍王にもちょっとだけお声を掛けましたが、対局が余りにもお忙しいということで、師匠の杉本昌隆八段にお越し頂くことになりました。図4の左は幼さの残る藤井龍王に杉本八段が勝てなくなってきたころの写真だそう



図2



図 3



図 4



図 5

です。杉本八段が何となく苦しんでいるような様子？が伝わって来そうです。また、図 4 の右は杉本八段が私に下さった色紙です。

5. 現地にお集まり頂きました参加者の皆さまに感謝申し上げます

図 5 は 2 日目の教育セッションの様様です。コロナ前の学会と変わらないくらいの参加者に本当に嬉しく思いました。

図 6 はハンズオンセミナーの様子です。岡庭信司先生の素晴らしいリードで（図 6 左は岡庭信司先生の模範演技です。暗くて少し分かりにくいですが、

現場の臨場感はこちらの方が良いと思い選びました。），参加者が上手に胆膵系を描出してくれています（図 6 右上下）。

6. ファイアサイドトーク

学会 2 日目の 18：30 からはファイアサイドトークも開催することが出来ました。

地元の日本酒と名古屋めしの屋台を繰り出しました。さらには、参加の皆様方にはコロナ対策に関して十分な注意を払って頂きました。

橋本実行委員長の司会のもと、熊田先生が乾杯の音頭を取られ、ファイアサイドトークがスタートしました（図 8）。十分な対策のもとでの開催であり、なんの問題もなくファイアサイドトークは滞りなく進んでいきます。

椎名毅理事長（図 9 左）が、“理事長の間に皆さまの前で挨拶が出来るとは思っていなかったので、大変嬉しい”と言って下さった瞬間に現地再開で良かったなと思った次第です。その後、名誉会員（図 9 右は左から谷口信行先生、椎名毅理事長、森秀明先生）はじめ各種の表彰が以前の学術集会のように行われました。日本超音波医学会第 96 回学術集会の菊池昭彦先生のご挨拶も滞りなく終了しま



図 6



図 7



図 8



図 9

した。学会は勉強の場ですが、ファイアサイドトークのような交流の場を通じて本当の一体感が生まれ、学問も遊びも昇華するのだと改めて感じた次第です。

7. 皆さま、本当に有難うございました

図 10 は本学会を支えてくれた仲間たちです。色々

と大変なこともありました。何より、会長自らが“何があっても現地開催だ”と意気込まれてはみんな迷惑だったに違いありません。それでも、こんな素晴らしい笑顔を見せてくれる仲間たちに心からお礼を申し上げます。



図 10